

編集委員会便り

現代の産業社会は、消費を前提とした複雑な経済的、社会的活動の上に構築されている。すなわち、資源とエネルギーを消費することで、人々が生きるに必要な衣食住や健康、あるいは快適さを充足させている。問題は、経済の急激な成長に伴い、資源とエネルギーの消費による環境影響がその許容範囲を超え始めており、このまま放置しておくとして将来、取り返しのつかない状態になってしまう恐れがある。

果たして世界は、21世紀も大量のエネルギーを安定に確保し、環境破壊のない豊かな経済発展を維持できるのだろうか。残念ながらその答えはまだ分からない。しかし、これまでの社会の基本であった「無限」の思想が破綻することは間違いない。資源と環境の「有限」を前提に、21世紀は社会の仕組みを見直すことになろう。来世紀に望まれる社会は、省エネ・省資源を追求した環境調和型社会である。

ライフサイクルアセスメントとは、現代の複雑な技術社会が生み出した諸問題を取り扱うシステム分析法の一つである。それは、製品や技術について“ゆりかごから墓場まで”のライフサイクルにおける諸問題、特に環境問題を中心に社会に与えている影響を総合的

に分析し、環境負荷を低減する方策を検討していくものである。

特集は、LCAの普及・促進がわが国で一層、拡大することを願って、現在の進捗状況と今後の発展の方向についてそれぞれの専門の立場からまとめてもらった。世界とわが国におけるLCAの手法、データベース、ISOへの発展について解説し、さらに事例研究として冷蔵庫（家電製品）、複写機（事務所機器）、自動車（輸送機関）、石油製品（素材産業）、建築物（インフラ設備）を取り上げ、異なる分野の活動状況を紹介している。特集で紹介する知見でLCAのすべてを網羅することはできないが、その情報は今後LCAを検討しようとする人々に大いに参考になると思われる。今回の特集がLCA普及のための一手引として活用されれば幸いである。

内山洋司

((財)電力中央研究所 経済社会研究所 技術評価
グループリーダー 東京工業大学総合理工学研究所
人間環境システム専攻客員教授)